



IR説明会資料 (2012年3月期 第2四半期決算)

株式会社 極 洋 (1301)

<http://www.kyokuyo.co.jp>

■ 2012年3月期第2四半期概要説明

トピックス	3-7P
企業集団の状況	8P
決算概要	9-21P

■ 2012年3月期業績予想及び下半期方針

基本方針	23P
連結・単独業績予想	24-25P
事業セグメント別連結売上高・営業利益予想	26P
事業セグメント別方針	27-32P
投資計画	33P
今期連結業績予想とキョクヨーグループチャレンジ2012の進捗度	34P

(注)この資料における当初予想数値は2011年5月13日に公表した業績予想数値です。
同じく、通期予想数値は同11月2日に公表した業績修正予想数値です。

2012年3月期 第2四半期概要説明

■ 震災からの復旧・復興

①各被災事業所の復旧

- ・ 塩釜研究所、極洋食品(株)本社工場（宮城県塩竈市）、同社八戸工場、同社ひたちなか工場が被災。
- ・ グループ総力を挙げての復旧活動を行い、4月より順次操業再開。現在は震災前の態勢に戻る。



極洋食品(株)八戸工場における復旧作業

②常温食品事業の回復状況

- ・ 水産缶詰の主力協力工場が津波等で損壊し供給面に大きく影響が出たが、**畜肉缶・輸入農産缶・輸入かつお缶**等で供給不足をカバー、8月以降単月売上は前年同期を上回る。

③被災地支援活動

- ・ 日本赤十字社他を通じ総額1,200万円の義援金を被災地へ寄付
- ・ 缶詰等の義捐物資を被災地に提供
- ・ 2011年中元カタログ販売の売上金の一部を、義援金として日本赤十字社を通じ被災地へ寄付。2011年歳暮カタログにおいても継続して実施予定。
- ・ 極洋水産(株)所属の海外まき網船等による被災地への救援物資搬送
- ・ マグロ養殖業者および大手量販店との共同で被災地にまぐろ丼を無償提供



まき網船搭載漁艇による救援物資の陸揚げ作業

■ ”スモークサーモン”が3年連続モンドセレクション金賞を受賞(6月)

- ・2011年の第50回モンドセレクションにて、3年連続金賞を受賞し、併せて**国際優秀品質賞**を受賞
- ・また、ジョッキ製品”**ドライスモークサーモン ～燻～**”が銀賞を受賞
- ・改めて品質にこだわる当社製品の付加価値の高さをアピール



スモークサーモンを使った手鞠寿司



ドライスモークサーモン ～燻～

■ まき網事業における海外合弁会社設立

4月、極洋水産(株)とキリバス政府の間で海外まき網事業に関する協定を締結

7月、**Kiribati and Kyokuyo Co.,Ltd.**(略称KKC)を設立

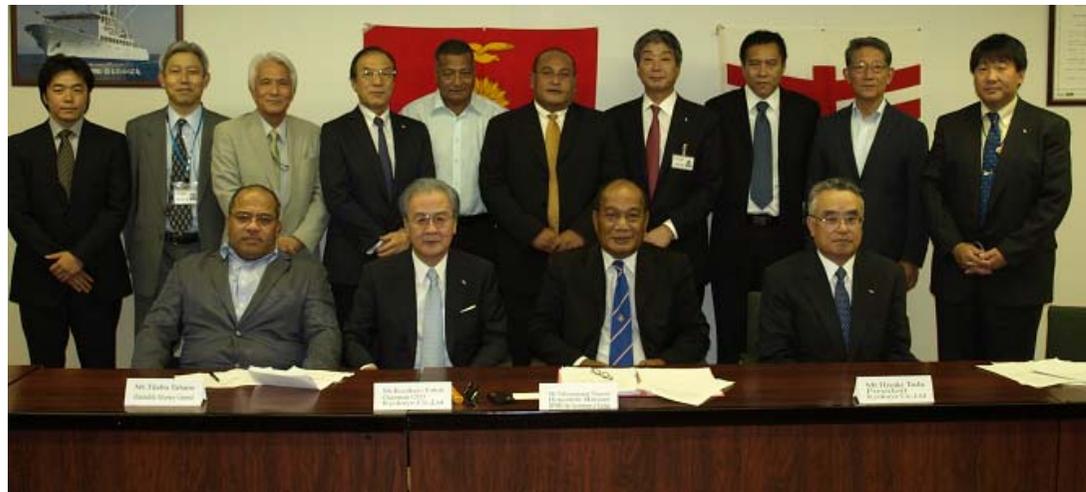
設立目的 ①国際的な資源管理が強化される中、資源の有効活用と、同国経済発展への貢献

②将来に向けて我が国に安定した水産資源の供給を確保

③当社グループの鰹・鮪事業の発展に寄与

所在地:キリバス共和国 資本金:10万豪ドル 売上高:約10億円(年間)

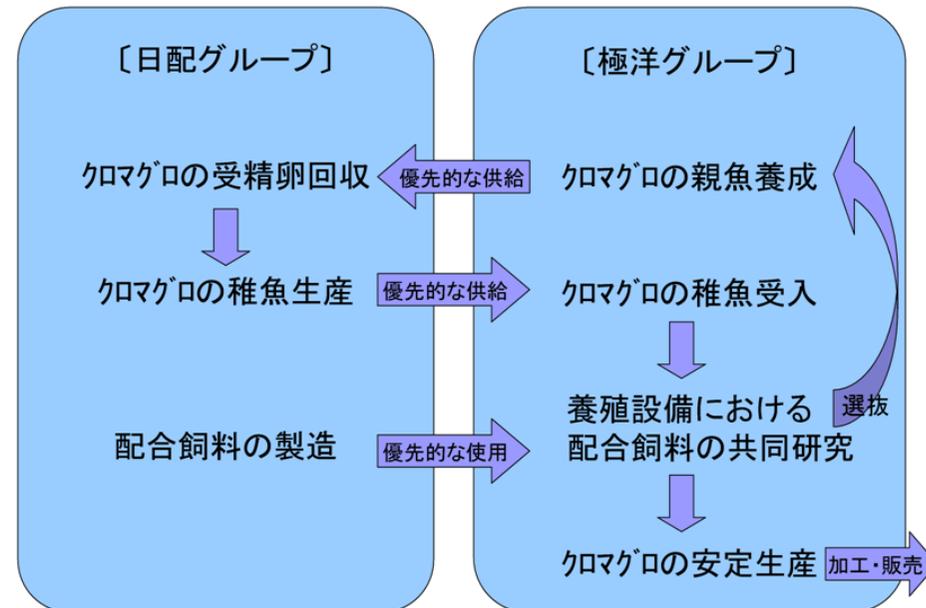
事業内容:極洋水産(株)が同社所属の「第3わかば丸」をKKCに貸し渡し、KKCは漁獲物の販売を含め海外まき網事業を運営(来年1月よりの事業開始を予定)



KKC社 第1回株主総会・取締役会開催時記念撮影

■ クロマグロ等の養殖事業における業務提携契約締結（9月）

極洋・キョクヨーマリンファーム(株)・キョクヨーマリン愛媛(株)
 と日本配合飼料(株)・南洋漁業(株)(日本配合飼料(株)の連結子会社)との間で、クロマグロ
 他水産物の包括的な業務提携を行うことで合意。
 目的:お互いの持つ情報、技術等を相互に
 補完・活用し合い事業基盤の強化と更なる
 発展のスピードアップ。



☆日本配合飼料(株) 会社概要

本社:横浜市 設立:昭和4年10月

資本金:85億63百万円

代表者:代表取締役社長 吉田 和臣

事業内容:飼料、農水産物、食料品の製造・販売

畜産業並びに生物飼養



■ (株)ジョッキ完全子会社化 (9月)

9月30日、同社の株式を追加取得し、完全子会社化

【これまでの経緯】

平成20年3月31日 (株)ジョッキに資本参加

平成20年9月30日 株式追加取得→連結子会社化

平成23年9月30日 株式追加取得→完全子会社化

目的:より一層の意思決定のスピードと機動力を高め、
常温食品事業の拡大とグループ企業価値の向上。

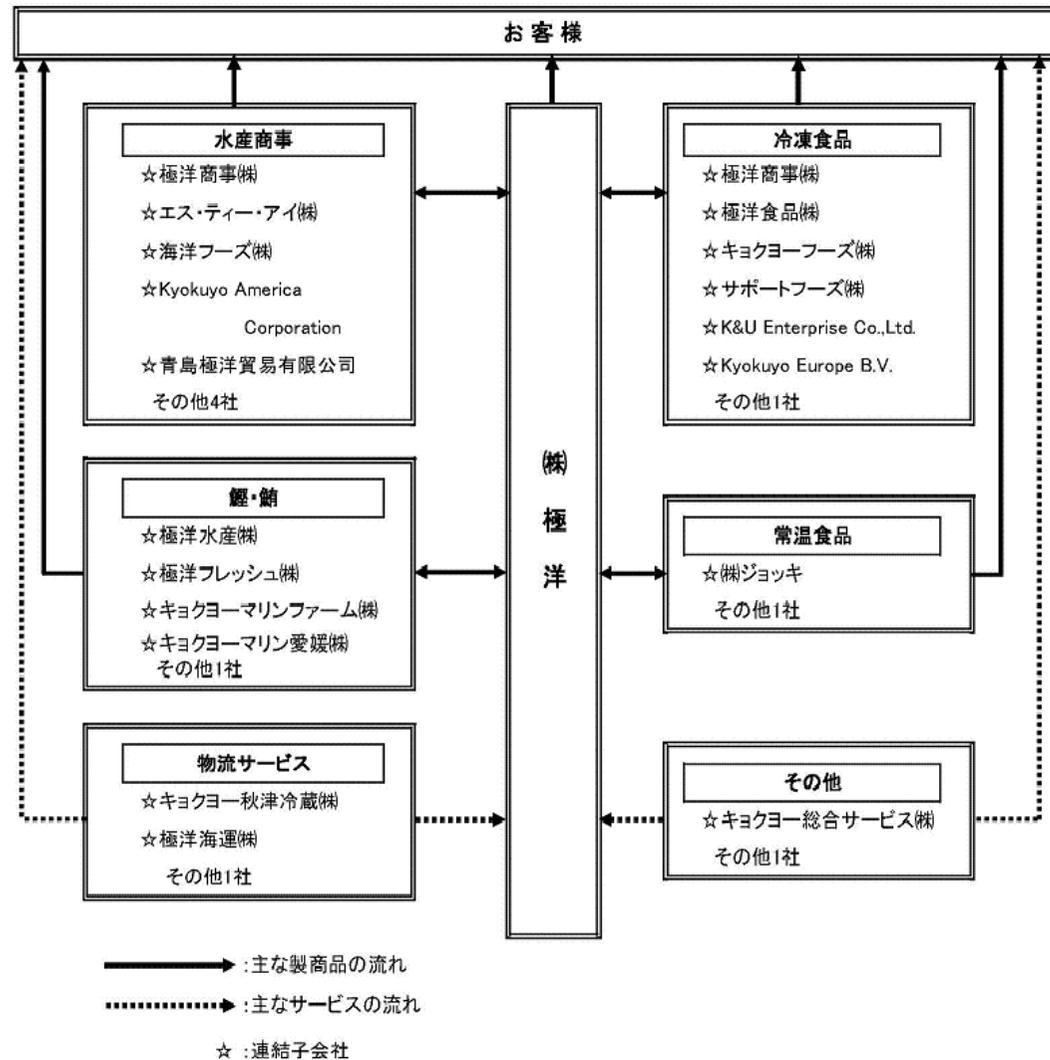


(株)ジョッキ本社

■ CP格付け取得(J-2) (4月)

50億円の短期社債(電子CP)発行 (5月)

資金調達が多様化、借入金利の更なる削減を図る。



極洋及び連結子会社25社(前期末から1社増)、関連会社2社より構成

当第2四半期に新たに当社グループに加わった連結子会社 : Kiribati and Kyokuyo Co.,Ltd.

1. 連結損益計算書

前年同期比増収増益、当初予想比増収減益

(単位:百万円)

	11年3月期 第2四半期 累計期間	12年3月期 第2四半期 累計期間	前年同期比		12年3月期第2四半期	
			(増減金額)	(比率)	当初予想	(増減比率)
売上高	77,631	87,763	10,131	13.1%	84,000	4.5%
営業利益	556	762	206	37.2%	1,300	△ 41.4%
営業外収益	320	478	157	-	-	-
営業外費用	185	231	45	-	-	-
経常利益	691	1,009	318	46.0%	1,200	△ 15.9%
特別利益	28	0	△ 27	-	-	-
特別損失	911	3	△ 908	-	-	-
税金等調整前 四半期純利益	△ 191	1,006	1,198	-	-	-
四半期純利益	△ 244	386	630	-	700	△ 44.9%

- ・売上高は、水産商事事業における売上増などにより、前年同期・当初予想ともに上回りました。
- ・営業利益は、前年同期は上回りましたが、冷蔵運搬船事業・海外まき網事業の苦戦が響き、当初予想を下回りました。
- ・営業外収益は、外国為替差損益などの影響で当初予想を上回りました。
- ・経常利益は、前年同期は上回りましたが、当初予想を下回りました。
- ・特別損失は、前年同期は投資有価証券評価損879百万円が発生しましたが、当第2四半期ではこうした特殊要因はありませんでした。
- ・四半期純利益は、前年同期は上回りましたが、当初予想は下回りました。



2. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	資産の部		
	10年9月末	11年9月末	前年同期比
流動資産	58,074	65,935	7,860
固定資産	19,977	20,364	387
資産合計	78,052	86,300	8,247
	負債の部		
	10年9月末	11年9月末	前年同期比
流動負債	51,263	60,197	8,934
固定負債	8,919	9,032	112
負債合計	60,183	69,229	9,046
	純資産の部		
	10年9月末	11年9月末	前年同期比
純資産合計	17,869	17,070	△ 798
負債純資産合計	78,052	86,300	8,247

主な増減内訳(対前年同期比)

流動資産

[現金及び預金]	△6億円
[受取手形・売掛金]	+32億円
[たな卸資産]	+52億円

固定資産

[有形固定資産]	△6億円
[投資その他の資産]	+11億円

流動負債

[短期借入金]	+39億円
[コマーシャル ペーパー]	+50億円

固定負債

[長期借入金]	△9億円
[退職給付引当金]	+8億円

純資産

[その他有価証券 評価差額金]	△5億円
[少数株主持分]	△2億円



2012年3月期 第2四半期決算概要

3. キャッシュ・フロー計算書(連結)

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計会計の主な内訳	
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円) △6,962	(百万円) △7,723	税金等調整前当期純利益 売上債権増 たな卸資産増 仕入債務増	10億円 33億円 65億円 10億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,760	△ 430	固定資産の取得	3億円
財務活動による キャッシュ・フロー	9,585	7,719	短期借入金純増 CPの増 長期借入金の返済 配当金の支払	39億円 50億円 5億円 5億円
現金及び現金同等 物に係る換算差額	△ 26	△ 10		
現金及び現金同等 物の増減額	835	△ 445		
現金及び現金同等 物の期首残高	2,672	3,322		
現金及び現金同等 物の期末残高	3,507	2,877		



2012年3月期 第2四半期決算概要

4. (連結)経営指標

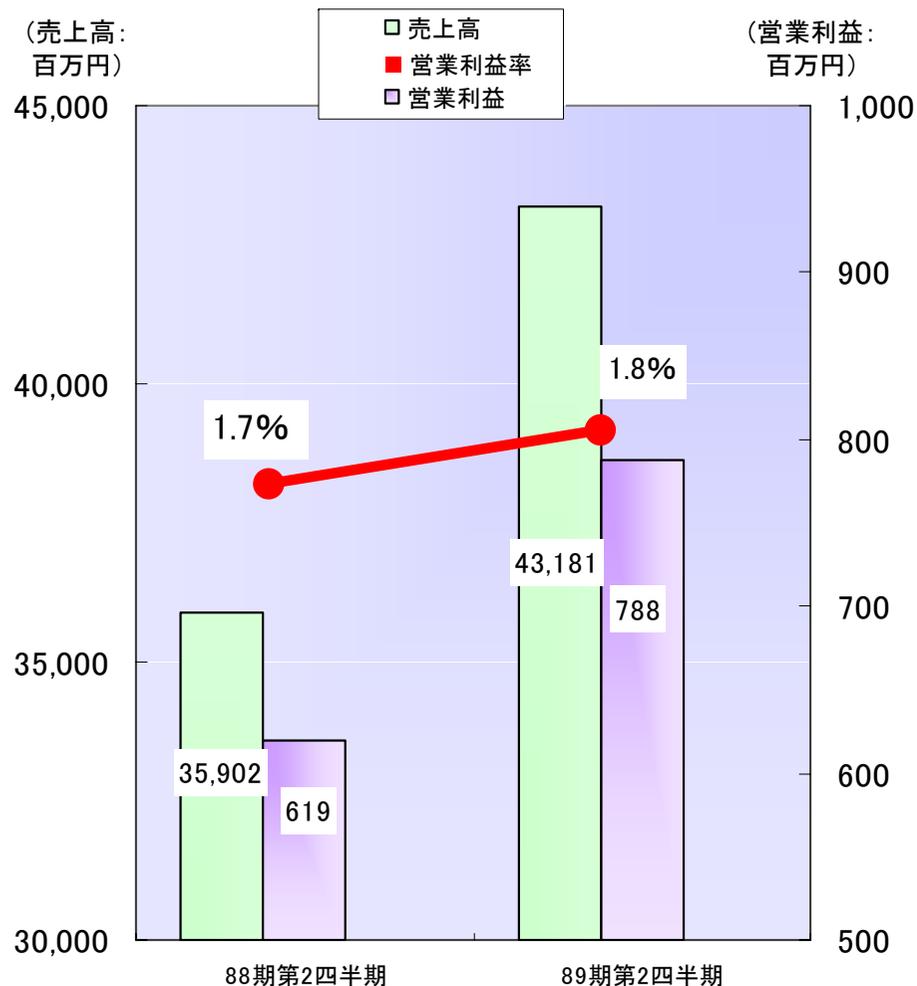
	10年9月末	11年9月末	前年同期比
純資産	17,869百万円	17,070百万円	△798百万円
自己資本比率	22.3%	19.5%	△2.8ポイント
商製品在庫金額	28,135百万円	33,178百万円	5,042百万円
在庫回転日数	56.9日	62.1日	5.2日
有利子負債	408億円	488億円	79億円
負債資本倍率(D/E レシオ)	2.3倍	2.8倍	0.4ポイント
自己資本利益率(ROE)	—	2.3%	—
総資産経常利益率(ROA)	1.0%	1.2%	0.3ポイント
売上高営業利益率	0.7%	0.9%	0.2ポイント
1株当たり純資産	164円25銭	160円19銭	△4円06銭
1株当たり四半期純利益	△2円31銭	3円68銭	5円99銭

5. (連結)事業セグメント別売上高・営業利益(前年同期比)

(単位:百万円)

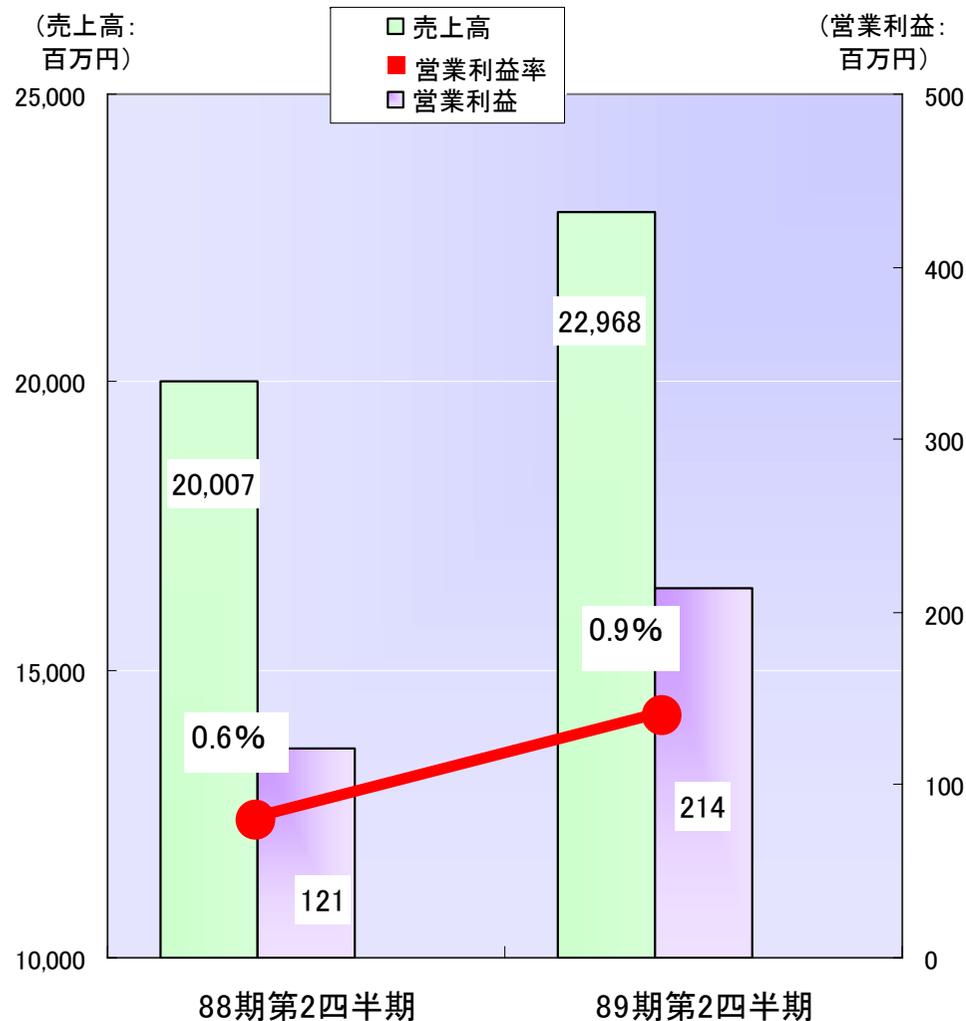
	売上高			営業利益		
	11年3月期 第2四半期 実績	12年3月期 第2四半期 実績	前年同期比	11年3月期 第2四半期 実績	12年3月期 第2四半期 実績	前年同期比
水産商事	35,902	43,181	7,279	619	788	168
冷凍食品	20,007	22,968	2,960	121	214	93
常温食品	6,827	6,730	△ 96	169	78	△ 91
物流サービス	2,027	1,833	△ 193	△ 279	△ 231	48
鰹・鮪	12,837	13,012	174	245	104	△ 141
その他・本部調整	29	36	6	△ 320	△ 191	128
合計	77,631	87,763	10,131	556	762	206

6. (連結)事業セグメント別概況、売上高・営業利益・営業利益率 (1)水産商事事業一売上高・営業利益前年同期比増加



- ①海外における水産物の買付価格が上昇するも、震災の影響から冷凍魚への需要が高まり、国内市況が堅調に推移
- ②鮭鱒・北洋魚を加工原料として順調に販売
- ③北洋魚の切身・定塩鮭・エビ加工品などの付加価値製品を積極的に拡販
- ④関係会社とのシナジー効果を発揮し収益に貢献
(海洋フーズ、エス・ティー・アイ)

(2) 冷凍食品事業一売上高・営業利益前年同期比増加



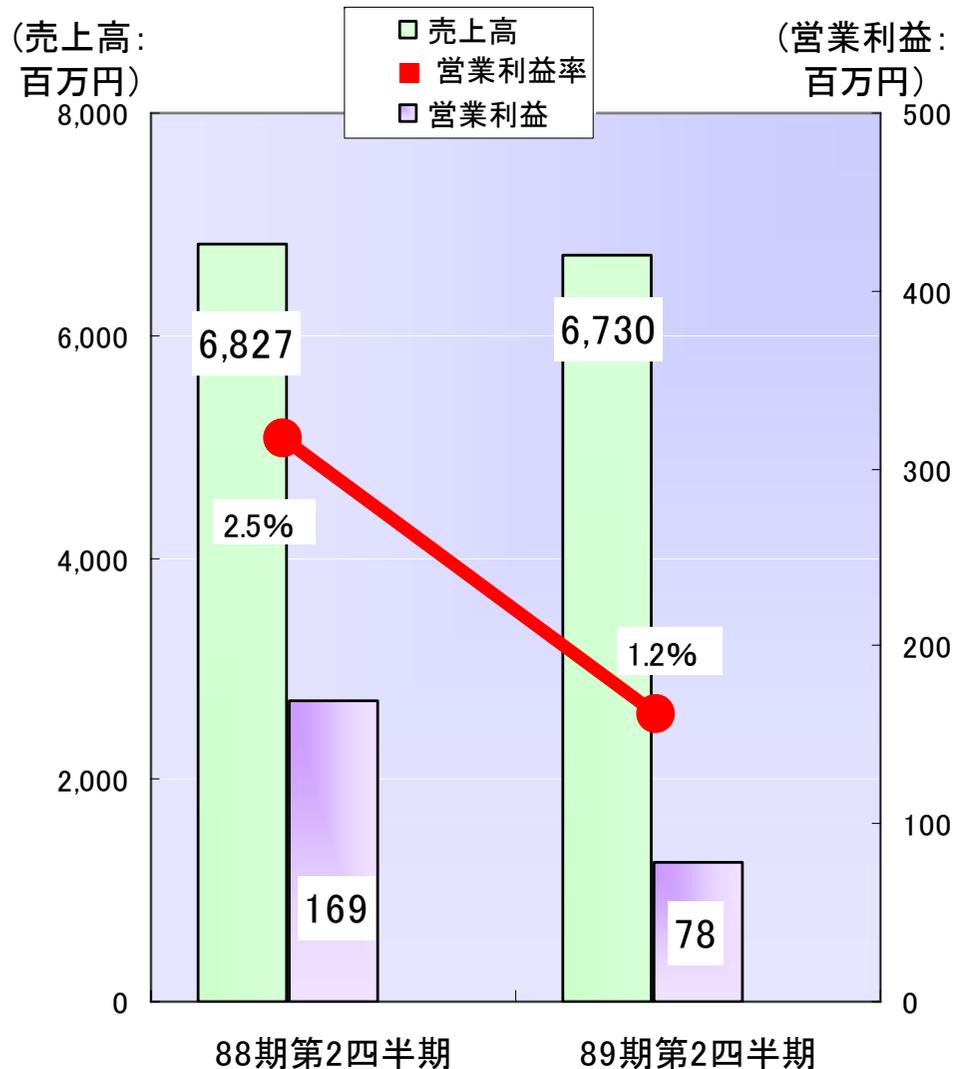
【水産冷凍食品】

- ① 上半期寿司種・生食商材販売実績
前年同期比114% 90億円(鰹・鮪30億円含)
- ② 寿司イカ・うなぎなど大手回転寿司
チェーンや大手コンビニ向けに拡販
- ③ タイの協力工場製造の切身製品が生協・
医療食ルート向けに伸長

【調理冷凍食品】

- ① 消費者の中食・内食志向を背景に、コスト
高への対応として海外製品の安定供給に
努めたことが奏功
- ② オーシャンキングの極(きわみ)の販売も
順調に推移

(3) 常温食品事業一売上高・営業利益前年同期比減少



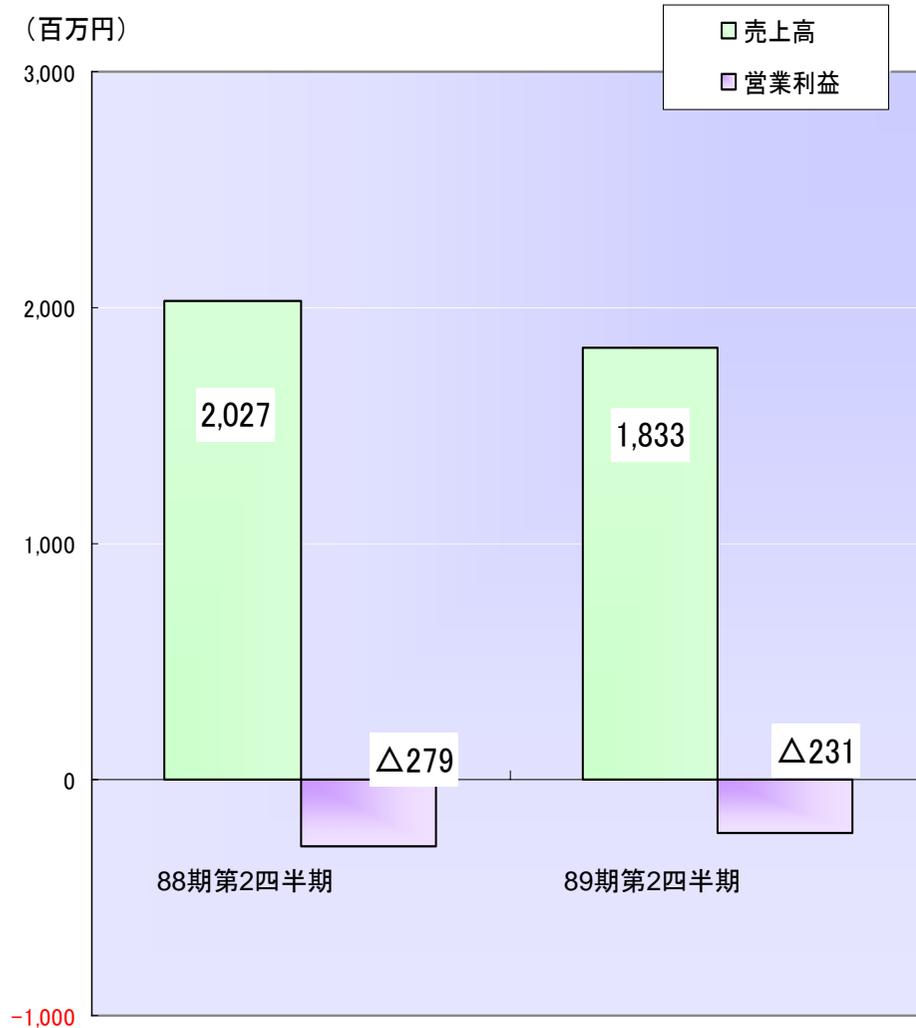
【缶詰】

震災により、缶詰が非常食・保存食として見直されたが、東北地区の水産缶詰主力協力工場が被災し、商品供給に支障をきたし、売上利益とも前年に及ばず。

【ドライフード・海産珍味】

既存取引先への拡販を主軸に、また新規開拓効果もあり、前年同期比で売上は増加したが、主原料のいかなる価格が高騰、極洋の買付ルート活用を図るも、利益は減少。

(4) 物流サービス事業一売上高・営業利益前年同期比減少



【冷蔵倉庫事業】

原料保管中心から加工食品なども取り扱う物流型への対応強化に努め、売上・利益ともに前年同期比増加

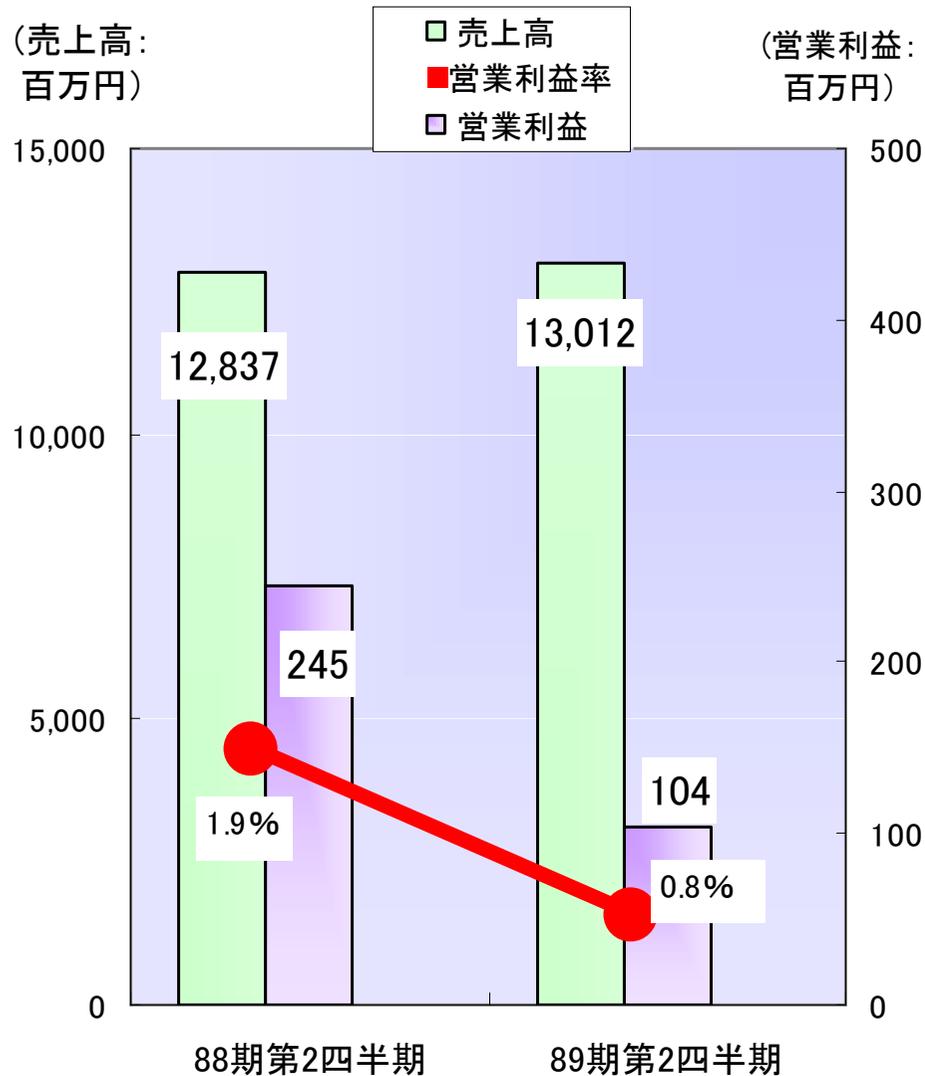
【冷蔵運搬船事業】

事業環境が悪化し、売上は前年同期比減少の上、損失計上に至る。

(要因)

- ・主要貨物のバナナの不作
- ・欧州の景気低迷による消費力減退
- ・コンテナ船との貨物獲得競争激化
- ・急激な円高
- ・燃油価格の高騰

(5) 鯉・鮪事業—売上高前年同期比増加、営業利益前年同期比減少



【鯉・鮪加工及び販売事業】

国内外からの原料調達ルートの拡充を図り、大手回転寿司チェーンや量販店などへの拡販に努め、売上は前年同期比増加となったが、利益は原料高などにより前年同期比減少

【海外まき網事業】

	2010年9月	2011年9月	前年同期比
水揚げ数量(トン)	17,231	11,326	△ 5,904
水揚げ金額(百万円)	2,534	1,805	△ 729
単価(円/KG)	147	159	12

震災の影響により操業一時中断を余儀なくされ、東沖のかつお漁獲不振もあり、売上・利益とも前年同期比減少

【養殖事業】

市況動向を見ながら成魚の出荷時期を下半期主体に調整していることにより、売上・利益とも前年同期比減少

7. 単独損益計算書

前年同期比、当初予想比とも増収増益

(単位:百万円)

	10年3月期 第2四半期	11年3月期 第2四半期	前年同期比		12年3月期第2四半期	
			(増減金額)	(比率)	当初予想	達成率
売上高	70,187	79,887	9,699	13.8%	72,000	111.0%
営業利益	956	1,132	175	18.4%	900	125.8%
経常利益	1,073	1,269	195	18.2%	1,000	126.9%
四半期純利益	20	744	723	3509.0%	600	124.1%

- ・売上高は、常温食品事業を除く、水産商事、冷凍食品、鰹鮪の各事業で前年同期比増収
- ・営業利益は、水産商事事業、冷凍食品事業で前年同期比増益、常温食品事業、鰹鮪事業は減益
- ・前第2四半期では、特別損失として投資有価証券評価損10億3百万円が発生

8. (単独)魚種別品種別 売上数量・金額・単価

(1)水産商事事業

(単位:数量:トン、金額:百万円、単価:円//KG)

	11年3月期 9月末			12年3月期 9月末			前年同期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
鮭鱒	13,905	8,886	639	18,842	12,162	646	4,937	3,276	6
南方魚	3,376	2,019	598	4,072	2,328	572	696	309	△ 26
北洋魚	21,705	8,512	392	22,613	10,399	460	909	1,887	68
エビ	10,129	8,602	849	9,852	8,613	874	△ 277	10	25
カニ	1,581	2,334	1,476	1,261	2,256	1,790	△ 320	△ 77	314
鰯鯖鱒	4,035	1,239	307	3,765	1,237	329	△ 270	△ 2	21
魚卵	2,657	2,660	1,001	2,790	2,779	996	133	120	△ 5
その他	3,768	2,137	567	3,227	2,282	707	△ 541	145	140
計	61,155	36,390	595	66,422	42,057	633	5,267	5,667	38



2012年3月期 第2四半期決算概要

(2) 冷凍食品事業

(単位:数量:トン、金額:百万円、単価:円/KG)

	11年3月期 9月末			12年3月期 9月末			前年同期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
水産冷凍食品	12,704	11,793	928	16,338	14,409	882	3,634	2,616	△ 46
調理冷凍食品	12,331	6,780	550	12,975	7,050	543	644	270	△ 6
計	25,035	18,573	742	29,313	21,459	732	4,278	2,886	△ 10

(3) 常温食品事業

(金額:百万円)

	11年3月期 9月末	12年3月期 9月末	前年同期比
缶詰・珍味製品他	4,796	4,483	△ 313

(4) 鰹・鮪事業

(単位:数量:トン、金額:百万円、単価:円/KG)

	11年3月期 9月末			12年3月期 9月末			前年同期比		
	数量	金額	単価	数量	金額	単価	数量	金額	単価
鰹鮪(買付・加工品)	13,753	10,066	732	11,992	11,486	958	△ 1,761	1,420	226

2012年3月期業績予想及び 下半期方針

1. 下半期 基本方針

最大の需要期である年末商戦に全力を挙げ、
加工戦略とグローバル戦略の更なる推進のもと、
次期以降の中期経営計画に向けた足がかりとする。

☆水産商事・冷凍食品事業の高付加価値商品の開発・拡販

☆寿司関連事業の売上目標200億円の達成

☆常温食品事業の上半期の落ち込み挽回

☆冷蔵運搬船事業の業績改善に注力

☆鰹・鮪事業の拡大

☆グループ内のシナジー効果の更なる発揮

☆在庫管理の徹底

2. 連結業績予想

前年同期比増収増益、当初予想比増収減益

(単位:百万円)

	上半期実績	下半期予想	通期予想	当初予想	当初予想との増減額	当初予想との増減率	前期実績	前期との増減額	前期との増減率
売上高	87,763	88,737	176,500	174,000	2,500	1.4%	162,731	13,769	8.5%
営業利益	762	1,538	2,300	3,200	△ 900	△28.1%	1,588	712	44.8%
(営業利益率)	0.9%	1.7%	1.3%	1.8%	-	-	1.0%	-	-
経常利益	1,009	1,291	2,300	3,000	△ 700	△23.3%	1,783	517	29.0%
(経常利益率)	1.1%	1.5%	1.3%	1.7%	-	-	1.1%	-	-
当期(四半期)純利益	386	914	1,300	1,700	△ 400	△23.5%	58	1,242	2141.4%
1株当たり当期(四半期)純利益	3円68銭	8円70銭	12円38銭	16円19銭	△3円81銭	-	0円55銭	11円83銭	-

- ・ 売上高は、当初予想から25億円の上方修正、前期比137億円の増収を見込む
- ・ 営業利益は、冷蔵運搬船事業のマイナス要因等を織り込み、当初予想から9億円の下方修正も、前期比7億円の増益を見込む。
- ・ 経常利益は、当初予想から7億円の下方修正も、前期比では5億円の増益を見込む。
- ・ 当期純利益は、当初予想から4億円の下方修正も、前期比では12億円の増益を見込む。

3. 単独業績予想

前年同期比、当初予想比とも増収増益

(単位:百万円)

	通期予想(12年3月期)			当初予想比(12年3月期)			対前期比(11年3月期)		
	上半期実績	下半期予想	通期予想	当初予想	当初予想との増減額	当初予想との増減率	前期実績	前期との増減額	前期との増減率
売上高	79,887	80,913	160,800	151,000	9,800	6.5%	148,009	12,791	8.6%
営業利益	1,132	1,268	2,400	2,300	100	4.3%	2,080	320	15.4%
(営業利益率)	1.4%	1.6%	1.5%	1.5%	-	-	1.4%	-	-
経常利益	1,269	1,131	2,400	2,200	200	9.1%	2,187	213	9.7%
(経常利益率)	1.6%	1.4%	1.5%	1.5%	-	-	1.5%	-	-
当期純利益	744	656	1,400	1,300	100	7.7%	706	694	98.3%
1株当たり 当期純利益	7円09銭	6円25銭	13円33銭	12円38銭	0円95銭	-	6円69銭	6円64銭	-

- ・通期単独予想は売上高を98億円上方修正、営業利益で1億円、経常利益で2億円、当期純利益で1億円上方修正。
- ・売上高は、全事業で当初予想から上方修正。
- ・営業利益は、水産商事、常温食品で当初予想から上方修正、鰹鮪、冷凍食品は下方修正。



2012年3月期業績予想及び下半期方針

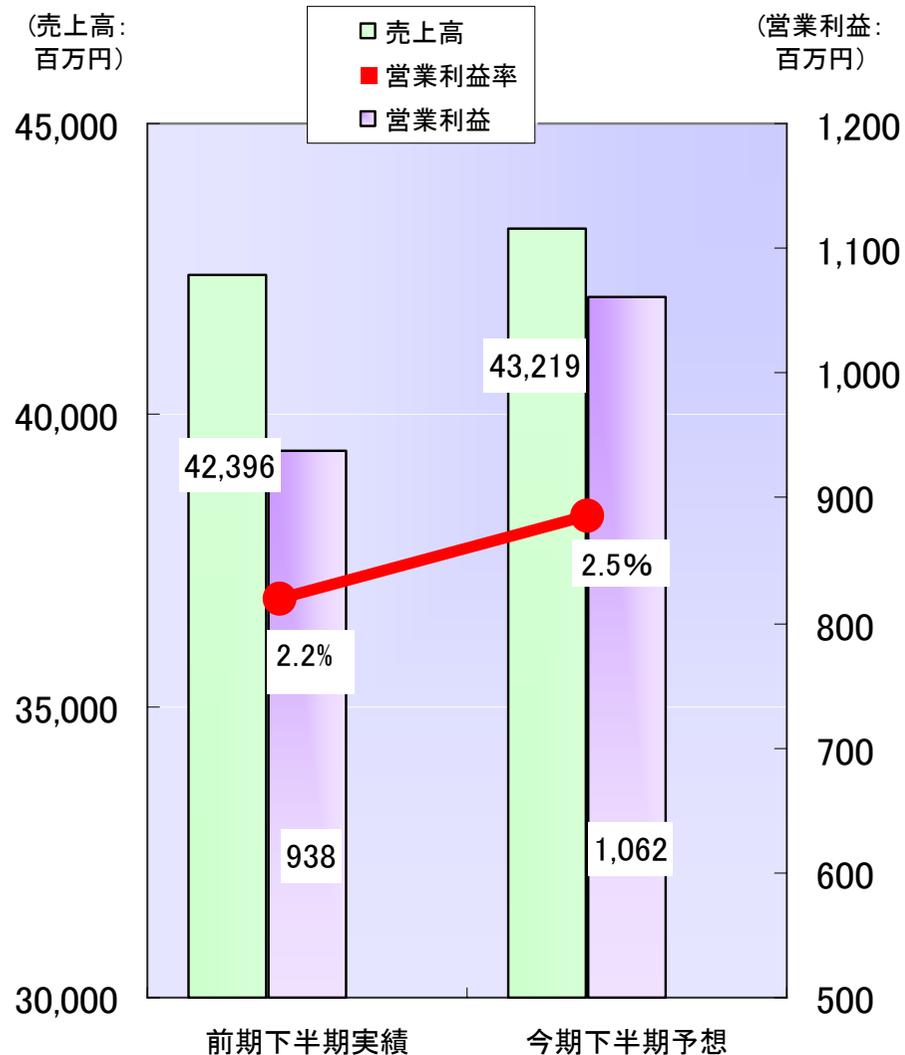
4. 事業セグメント別売上高・営業利益予想(連結)

(単位:百万円)

	売上高							営業利益						
	上半期		下半期		通期			上半期		下半期		通期		
	当期実績	前期実績	修正予想	前期実績	修正予想	前期実績	当初予想	当期実績	前期実績	修正予想	前期実績	修正予想	前期実績	当初予想
水産商事	43,181	35,902	43,219	42,396	86,400	78,298	85,000	788	619	1,062	938	1,850	1,557	1,600
冷凍食品	22,968	20,007	22,532	22,333	45,500	42,340	45,500	214	121	586	126	800	247	1,000
常温食品	6,730	6,827	6,870	6,826	13,600	13,653	13,500	78	169	182	129	260	299	200
物流サービス	1,833	2,027	2,067	1,921	3,900	3,948	5,000	△ 231	△ 279	△ 319	△ 105	△ 550	△ 385	200
鯉・鮪	13,012	12,837	14,088	11,588	27,100	24,425	25,000	104	245	296	110	400	356	750
その他・本部調整	36	29	△ 36	33	0	63	0	△ 191	△ 320	△ 269	△ 166	△ 460	△ 486	△ 550
合計	87,763	77,631	88,737	85,099	176,500	162,731	174,000	762	556	1,538	1,032	2,300	1,588	3,200

- ・水産商事事業は、上半期の順調な推移から、当初予想を売上利益とも上方修正
- ・冷凍食品事業は、売上高は当初予想据え置くが、原料高等コスト上昇要因等織り込み利益は下方修正。
- ・常温食品事業は、上半期の遅れを取り戻すべく積極的な拡販で売上利益とも上方修正。
- ・物流サービス事業は、冷蔵運搬船事業の収支落ち込みにより、売上利益とも下方修正。
- ・鯉・鮪事業は、加工及び販売事業は下半期も積極的な拡販で増収を見込むが、原料高に伴い利益率低下、海外まき網事業の上半期の不漁による収益落ち込みなどにより、当初予想から増収減益。

【水産商事事業】 最大の商機である年末商戦に注力



①付加価値商品の開発と販売ルートの開拓

②市況動向に即した迅速かつ的確な対応

(魚のプロ)

- ・タイムリーな買付
- ・在庫管理
- ・販売価格対応

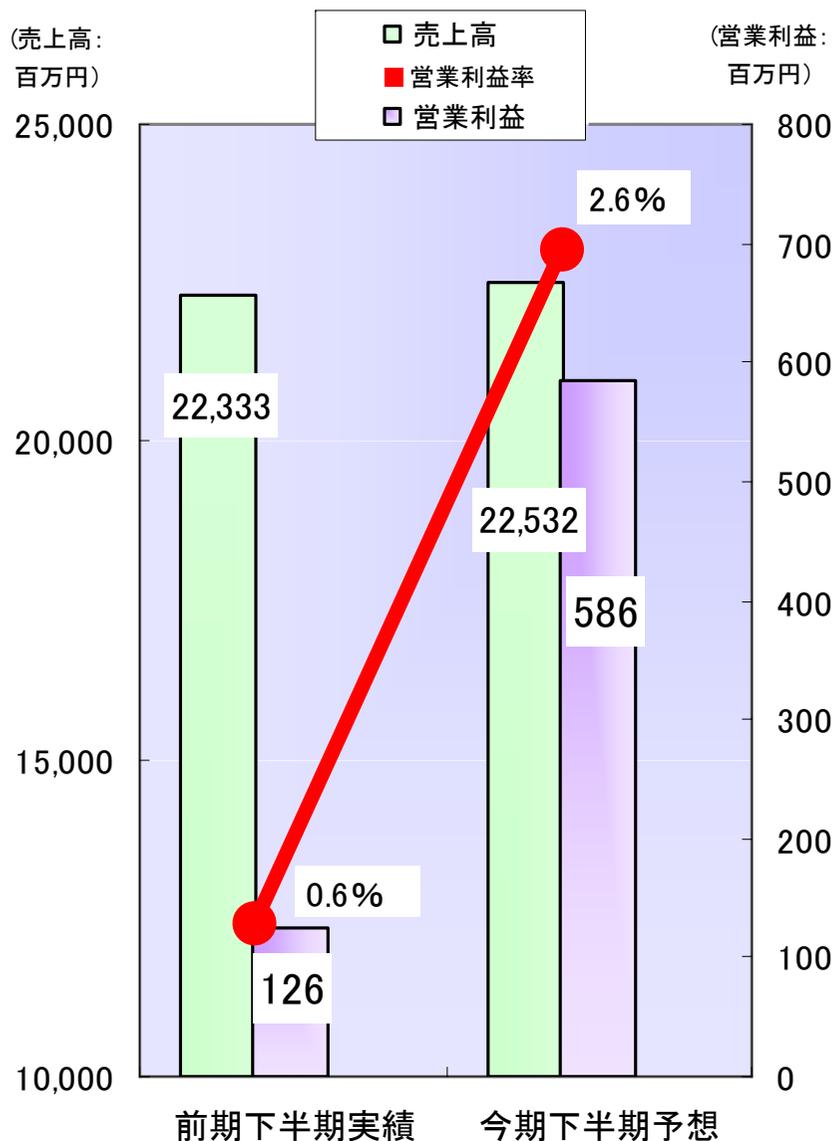
③安心・安全な商品の安定供給

- ・海外加工製品の安心・安全の徹底

④各事業、関係会社との協業によるシナジー効果の発揮

- ・海洋フーズ、エス・ティー・アイとの協業による取扱量拡大

【冷凍食品事業】 最大の商機である年末商戦に注力



【水産冷凍食品事業】

①寿司種生食商品の販売

- ・「寿司種生食チーム」によるシナジー効果発揮
売上通期目標200億円(鰹鮪63億円含む)の達成
- ・大手回転寿司チェーン、量販店への更なる拡販
- ・コストアップへの対応
原材料調達ルート、生産拠点の多様化
生産効率のアップ、販売価格への転嫁
- ・新規商材の開発、投入
サポートフーズ(株)、極洋フレッシュ(株)の活用

②加熱用商品の販売

- ・コストアップへの対応
国産魚を含め取扱魚の調達ルート拡大
タイ協力工場への技術員投入、
指導による品質改善、生産性向上
- ・新規商材の開発、投入

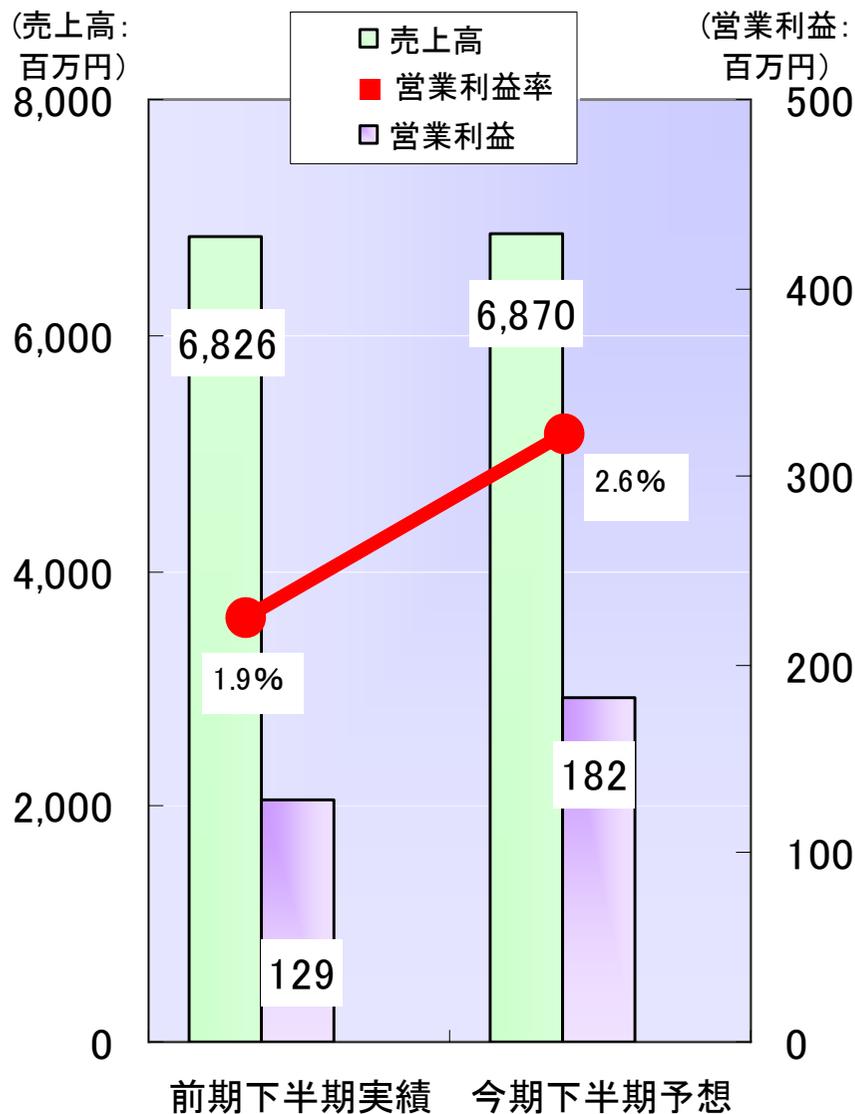
【調理冷凍食品事業】

①直系工場製品の売上拡大

②海外製品の売上拡大

- ・中国加工向けの水産原料の安定確保に注力
- ・新規商材の開発、導入
(新規魚種、新規工場、畜肉製品のアイテム増)

【常温食品事業】 上半期の落ち込みの挽回



【缶詰】

① 畜肉・農産品等アイテムの拡充

- ・輸入かつお缶1,000百万円、畜肉缶250百万円、農産缶250百万円の販売計画→魚介調理缶の落ち込みをカバー

② 国内工場の水産調理缶詰増産体制構築

- ・被災した協力工場の早期復興支援

③ 輸入品の取扱増

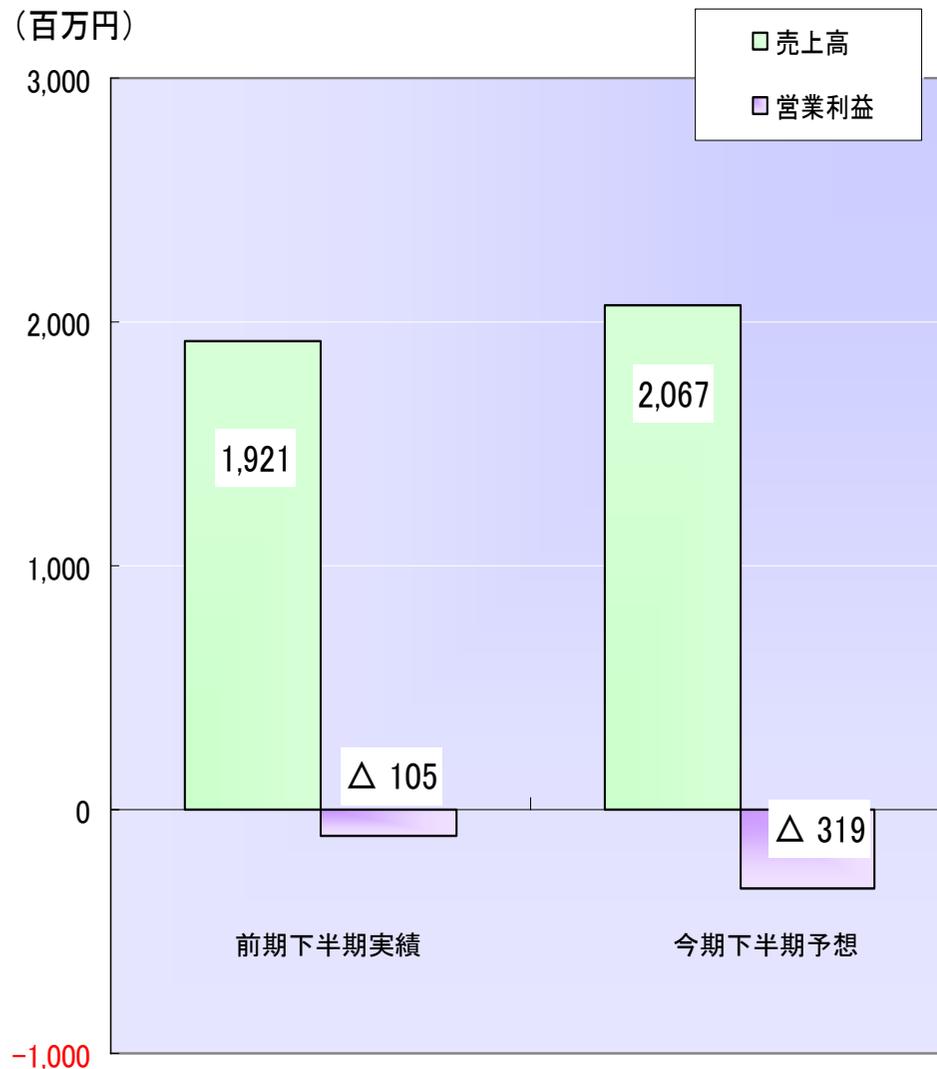
- ・リカルトトマトの注力販売、タイ・中国での新製品開発(特に魚介調理缶)

【ドライフード・海産珍味】

さらなる拡販

- ・駄菓子売場への新規商品の開発導入
- ・マーケットリサーチに基づく商品開発の推進

【物流サービス事業】 冷蔵運搬船事業の業績改善に注力



【冷蔵倉庫事業】

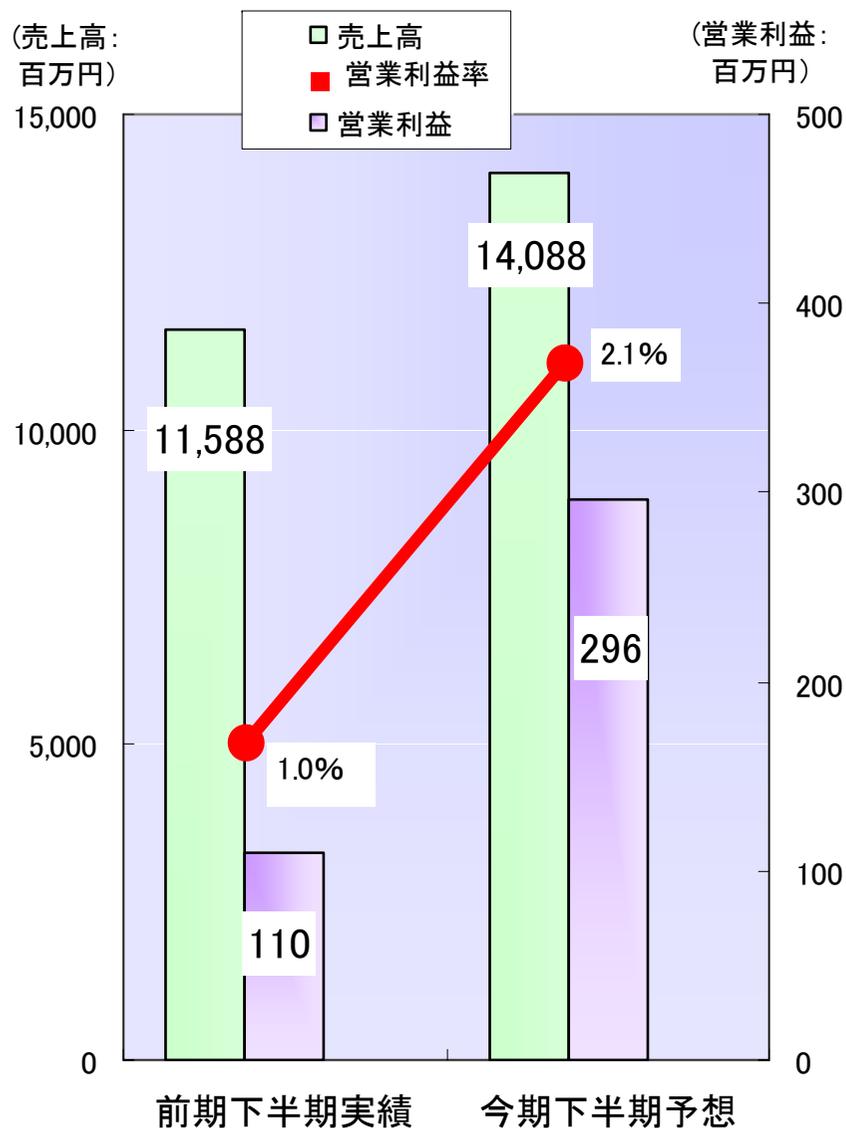
- ①利用運送事業の拡大
- ②業務の効率化と経費の削減の継続

【冷蔵運搬船事業】

年明けのトップシーズンに向け運賃市況の回復を見込みながら、併せて厳しい環境が長期化する状況に備え、船舶運航体制の抜本的対策も検討する。

- ・来年年初から始まるフィリピンバナナの年間契約締結
- ・スポット契約航路では好条件運賃で最大限の収益確保を図る。

【鯉・鮪事業】 養殖、漁獲から生産加工、販売までの連携強化による事業拡大



【鯉鮪加工及び販売事業】

①主力商材の継続販売

- ・大手回転寿司チェーン、量販店への拡販

②極洋フレッシュ製品の増販

- ・コンビニ向け生鮮マグロスライスの効率的な生産に向けた準備
- ・工場独自の製品開発の推進

③生鮮鮪の販路拡大

- ・「本鮪の極」の拡販を進め、利益確保
- ・メキシコ本鮪の空輸生鮮販売の継続

【海外まき網事業】

①下半期水揚げ数量13千トン 想定魚価160円

(前年同期14千トン 魚価145円)

②KKC事業開始(2012年1月)

【養殖事業】

①下半期5千尾の販売、価格堅調推移を見込む

②日配グループとの協業体制を推進し、1年後を目途に合併会社設立を検討

③本鮪以外の養殖・加工事業への参入を検討



2012年3月期業績予想及び下半期方針

【販売支援・管理】

☆海外工場製品の品質管理強化

☆新規商品の開発

女性中心の商品開発プロジェクトチーム等

☆社内受注集約化・チャーター便運航の促進、カートンサイズの最適化

☆知名度向上を図るべくセカンドブランド構築

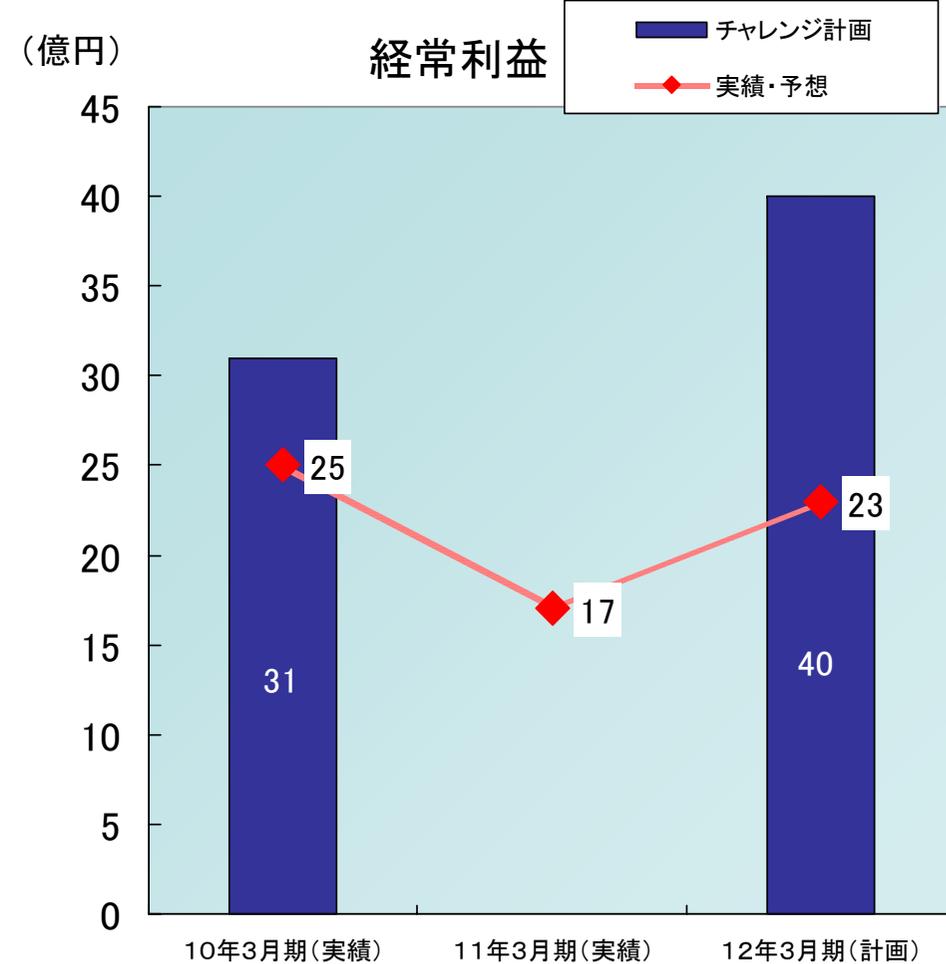
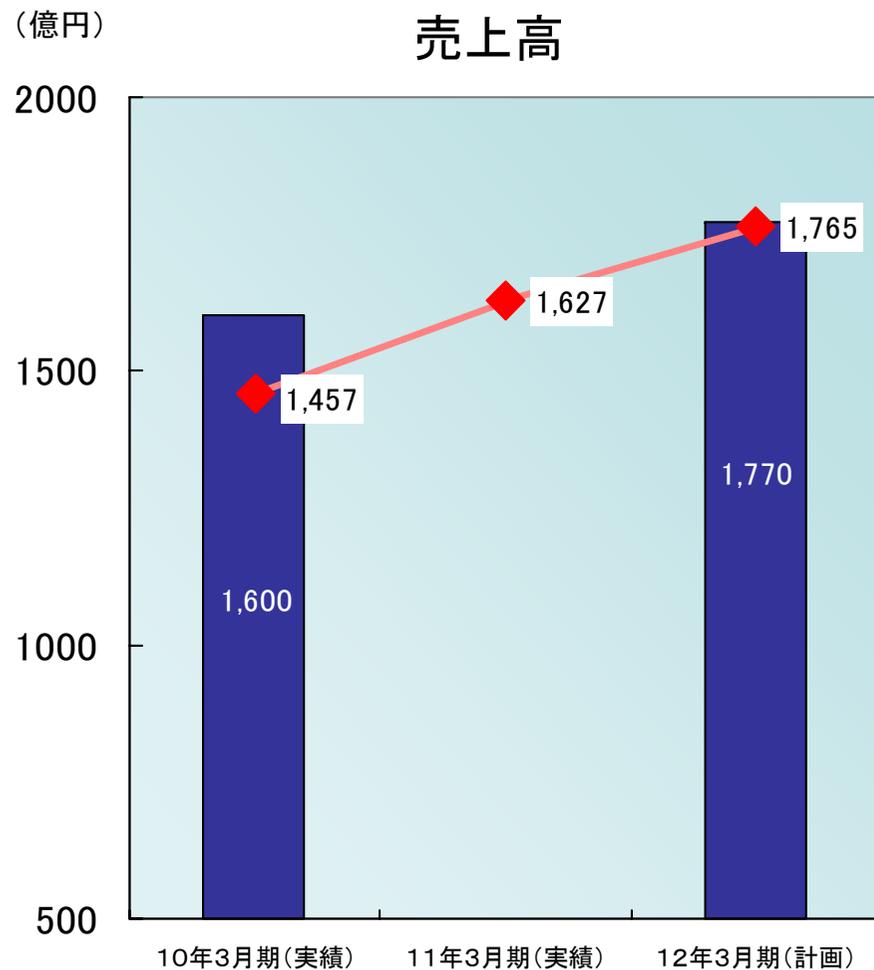
☆BCPの策定

☆手元資金・借入金のスリム化、CP発行継続による金利削減

5. 投資計画

		通期合計
極洋 (単独) (賃貸事業含)	極洋食品(株) 生産設備増強他	2億円
	キョクヨーマリンファーム(株)	1億円
	キョクヨーマリン愛媛(株)	1億円
	ソフトウェア関連	2億円
	その他	2億円
	計	8億円
関係会社	極洋水産 まき網船 設備新替	3億円
	キョクヨーフーズ他生産設備増強	3億円
	その他	2億円
	計	8億円

6. 今期連結業績予想とキョクヨーグループチャレンジ2012の進捗度



チャレンジ2012の目標達成に、売上高は達成見込みも利益は及ばない見込み。

本資料は2011年9月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的として作成しており、必ずしも投資をお勧めするものではありません。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。したがって実際の業績は、様々な要因により、これらの予想と異なることがありますのでご承知おきください。



当資料に関する問い合わせ窓口

株式会社 極 洋 企画部 電話03-5545-0703